

# 晩年

## D・A・N 通信

### No.11

2024.11.21 (77歳6ヶ月) ~ 2025.02.20 (77歳9ヶ月)

## 団 士郎

近年、目にしたモノの中で、ダントツに驚いたのは「校閲」済で返送されてきた自著新刊「**家族理解の教科書・Graphics**」の原稿だ。

一年前、かなり膨大な原稿を複数の身近な人に読んで貰った。そこから出版できるボリュームにスリム化し、とりあえずの初稿が完成した。これを発行元編集者・関係者複数に目を通して貰い、私も気になるところには手を入れた。

そして、前作「**家族の練習問題～終わりのない旅～第9巻**」でも校正・校閲をお世話になった**牟田郁子さん**にお願いをした。二百数十ページの三分の二はマンガ、残りが文章の本のゲラだ。

しばらくして戻されてきたモノを見て驚愕した。ほぼ全ページに書き込みがあった。校正は表記語句や漢字/カナの統一性や誤字脱字等がチェックされている。校閲は記述内容、挿入エピソード、ニュースなどの事実確認、法の文言原文チェックと丁寧な裏取り・確認作業が行われていた。

そして更に漫画のヒトコマヒトコマの絵への目配りがなされていた。「この人は最初ソックスを履いていますが…」、「この女性の胸元のブラウスの線が、後段にはないのですが」、「この人物は最初上着を着ていますが、後半脱いでいます。それでよろしいか？」…。このような指摘が全ページに続くのだ。

私だけではなく、発行元の編集者も、それまで何を見ていたのだろうとガックリ、いやそうではない、ただただ凄い！とため息が出た。この工程を抜きに発行していたら、どうなっていたらと思った次第。

そこでふと思うのだが、このマガジン。校正/校閲は執筆者お任せの方式をとっている。編集者としては相当な手抜き発行だと言えなくもない。だから十五年も継続できているのだとも言えるのだが、とにかくプロの仕事に脱帽だった。

11/21

自分の失敗じゃないから全然ストレスもないし腹も立たない。仕事場の宅配ボックスに他の人の荷物を間違えて入れてしまったと伝票が入っていた。滅多に見ない伝票だなあと改めて電話をしたら平謝りだった。明日受け取りに来て、向こうの私の荷物を受け取って、もう一度届けるといふ。

(夜遅く、間違ったお相手さんが荷物を手に来訪。こちらに預かっておいたブツと交換して、にこやかに到着。宅配業者には電話しておいた。)



11/23



気に入っている白シャツだが、届いた時から襟元が歪む。「何だこれは？」とシゲシゲ確認したら二番目のボタンの位置がズレている。そこで小学校の家庭科授業以来かと思うほど記憶にないボタンの付け替えをした。裁縫箱など取り出し、針に糸を通そうとして老眼を痛感。サザエさんマンガの古典シーン感に苦笑。ヤレヤレだ。

11/25

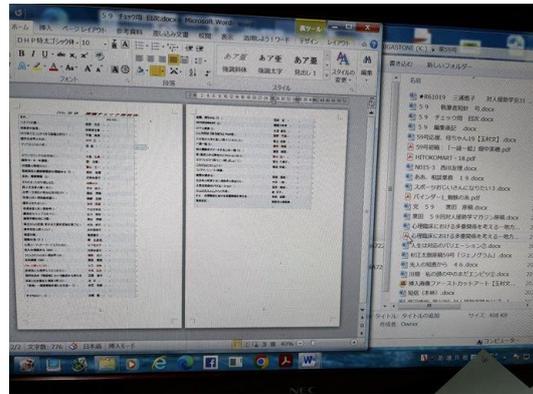
昨日、日曜日は朝から家族心理学会の研修「構造派家族療法」zoom版WSを担当した。五時間があっという間に済んでしまった。

(後日送られてきた多数のアンケートの声に、少々感激した。Zoom実施でも、こんなに受け手に届いているのだ。)

前日の土曜日は次男が訪ねてきたのでいつもの地元うなぎ「ちか定」で安定の満足。食後も馴染みの洋菓子店パレットの新作ケーキ4個を少しずつ賞味。11月の連載連投が無事一息ついた。

11/25

3ヶ月に一度、同じことを書いているが対人援助学マガジン59号の一次締切が今日だった。新規連載が一つ、休載の知らせも複数届く毎度の様子だ。15年も繰り返していると、これが私の暮らしのような気がする。と言っても60歳を過ぎてから始めたことだから、若手を巻き込んだ、バトンタッチ準備十分の高齢者の働き方。



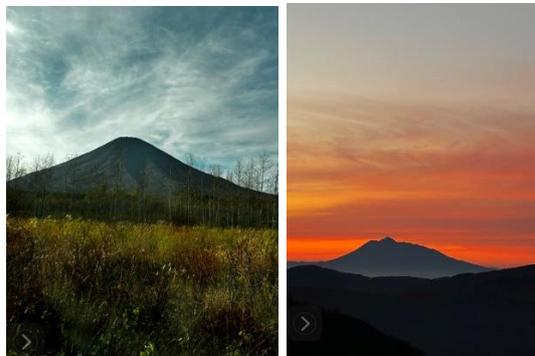
11/29

明日の静岡県裾野WSに前乗り。週刊誌のコラムで見た美術館に。信州上田の信濃デザイン館も無言館は共にも訪れたことがある。これらを作った窪島誠一郎の思いを展覧会にしたというので来てみた。前に現地で観た時よりもいろんなものの輪郭がハッキリした。静岡県

立美術館ってロダンのコレクションも凄い。



た。どれも仕事のノリシロのような時間でのこと。前後左右、余白時間の使い方も大事だ。



ここ1ヶ月ほどの間に、羊蹄山、岩木山、富士山のそれぞれ美しい姿をながめる機会があつ

11/30

裾野市で1日WS。こじんまりだが楽しげに、笑いも多めで進行。昨夜泊まったのはホテル・レンブラントという。フロントに「夜警」の絵があったが意味がわからん。富士山はすごい。どう、この秋晴れ。

12/1

どうでもいいようなこと。昨夜、EX 予約直前変更で早目の帰路を選んだら、この切符だった。名古屋駅ホームでは6号車を降りて14号車の乗車位置に移動。

すると目前に「きしめん住吉」が。10分余しかないのでちょっと躊躇ったが玉子牛肉きしめん注文。美味しく完食&列車到着、乗車！



12/3

定例の対人援助学マガジン編集会議。定刻18時ごろに大谷くん、千葉くんが来訪。今回はほぼすべての原稿がこの段階で届いたので、ゆっくりしたものだった。長く繰り返している作業なので、手違いも少ない。あれこれ世相放談から、子どもの進路選択話へと漂う。

12/4

ご案内告知！12/18開催の「帰ってきたトークライブ」第11回の準備をしている。第一話は前回に引き続いて、「ヒトコマ漫画の練習」、第二話は多分、旅の話。いつもの講座とは異なる演題です。私の話を聞いてみようと思われる方は、[shiro-san.com](http://shiro-san.com)までどうぞ。

**年末恒例！年忘れ、泣き・笑いの150分**  
**団士郎 帰ってきた トークライブ vol.11**  
**オンライン開催！**

2024年 **12/18** 水  
**20:00~22:30**

Zoomで全国どこからでも参加できる！

「トークライブ」は2021年4月〜2026年3月まで、最初は月例で、その後毎月で計36回、びっぴろプラザで定例開催していた企画でした。2023年は、専らから新型コロナウィルスの影響で、全国で定例開催するワークショップが順次中止になる中、Zoomという新たな手段が身近なものになりました。これら全国区で出張トークライブが可能ではないかと、2023年8月に第1回目をオンラインで開催。その後も継続的に開催した結果、毎回100人の参加者が集まる年々一度の恒例企画となりました。

「帰ってきたトークライブ」は、仲間はあんなに好きなのに、こんなことを考えています。「帰ってきたトークライブ」は、そんな疑問があります。でも考えてみると、新しい人は新しいことしか覚えません。生まれてなかった時代のことは、生きていないと聞いて貰うのが一番。そこで、お聞きの方にはお聞きの方の話を聞いて、新しいことは聞いて貰うのが一番。お聞きの方にはお聞きの方の話を聞いて、新しいことは聞いて貰うのが一番。お聞きの方にはお聞きの方の話を聞いて、新しいことは聞いて貰うのが一番。

1945 Zoom会場OPEN  
 20:00 団のことはZoomを通してお聞きの方の話を聞いて貰います  
 20:10 第一部  
 21:10 休憩  
 21:25 第二部  
 22:25 団のことはZoomを通してお聞きの方の話を聞いて貰います  
 22:30 終了

**参加の流れ**

- 1 下記QRコードを読み取り、必須事項をご記入の上お申込みください。
- 2 参加・催しのご案内をメールでお知らせします。
- 3 お支払いの確認が取れましたら、申込み完了のメールをお送りします。
- 4 2日前の夜にメールでお知らせするURLからご接続いただきます。
- 5 当日、お申込み後全員のメールに1週間視聴可能な録画URLをお送りします。

**申込み方法**

下記QRコードから、参加者氏名・電話番号・メールアドレスをご記入の上、お申込みください。  
 ※お申し込みは必ずお申し込みのメールアドレスを必ずお申し込みください。  
 ※メールアドレスは必ずお申し込みのメールアドレスを必ずお申し込みください。  
 ※メールアドレスは必ずお申し込みのメールアドレスを必ずお申し込みください。

申込み受付期間：12月16日(月)

▼お申し込み詳細を教えてください  
[https://www.asoblock.net/works/will/tw\\_fw\\_fw\\_top.html](https://www.asoblock.net/works/will/tw_fw_fw_top.html)

asoblock アソブロック株式会社 東京都新宿区西新宿2-10-6 西新宿アラスカビル 1号 03-6380-4606

12/4

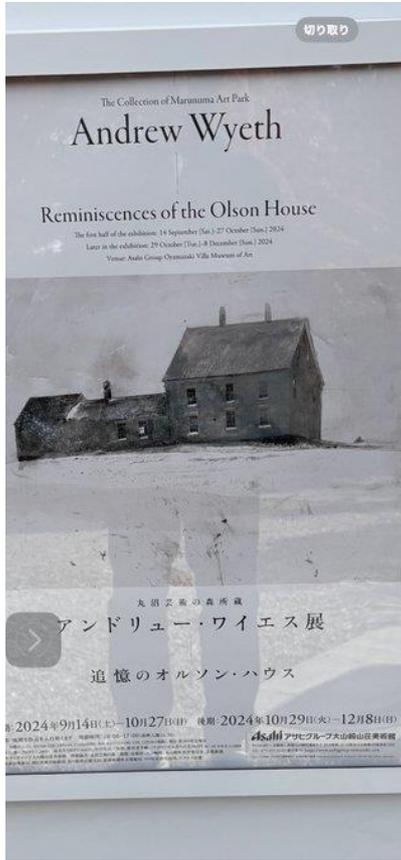
大腸ポリープの切除組織の検査結果を聞きにクリニックに。無事、何事もなく2年に一度くらいは検査をと言われ、寿命があったらと返して笑い合う。バスで河原町丸太町に出てランチと散歩。良い本も見つける。街は美しい風景で溢れている。



12/5

今週末までと最終日が迫っていたので、大山崎山荘美術館で開催中のアンドリュー・ワイエス展に出かけた。平日昼頃なのに、なかなかのお客さんだった。山全体の紅葉が驚くほど鮮やかで、それも見所、見頃かなと。ここに

足を伸ばすのは30年ぶりくらいではないか。  
予想以上に良かった。

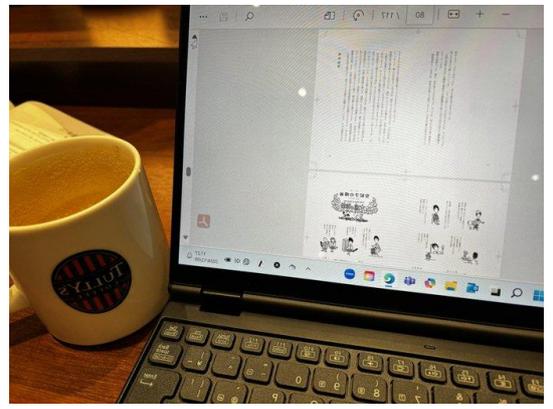


12/8  
マガジン編集などで仕事場に籠っていたが、  
本日はこのために立命館茨木キャンパスに。  
院生の報告、高校生の報告、中筋さんの話、  
いろいろ想起することがあって楽しい。長いこ  
と関わってきた割に、私はめるっとしている。

それが良さだと思っているからではあるが。何  
もシャカリキにならない。

An event poster for '震災を語り継ぐ' (Continuing the Story of Earthquake). The poster is for a lecture and photo exhibition. It features a photograph of a man with a camera. Text includes: '2011年3月11日の東日本大震災発災から13年余り。復興の名の下で作られた新しい街の風景が記憶に上書きされ、原発事故があった地では、復興の終わりの見えない日々が今も続いています。また、「3・11を知らない人たち」への、震災から学んだ教訓の継承が重要な課題となっています。' (13 years since the Great East Japan Earthquake on March 11, 2011. Under the name of reconstruction, the landscape of new streets has overwritten memories. In areas affected by the nuclear accident, the days of reconstruction without an end are still continuing today. Also, the inheritance of lessons learned from the earthquake for those who do not know '3.11' is an important issue.)', '本プロジェクトでは、福島とその周辺を中心に災害と人間について考える現地フィールドワークを行い、今年度も多くの方々から「小さな物語」をお聞きするとともに、震災の記憶を後世に伝えようと造られた施設を数か所訪れました。シンポジウムでは、その一つ「おれたちの伝承館」館長で写真家の中筋純氏に「写真が持つ記録性のか〜13年たった今、災厄をどう伝えるか〜」と題してご講演いただきます。また、現地を訪れた院生の報告、高校生たちの活動報告、さまざまな立場から「語り継ぐ」ための活動を展開している方々にもご発言いただきます。併せて、大阪いばらきキャンパス（OIC）ライブラリー展示室では中筋氏の写真展「コンセントの向こう側〜無人化した街々の静かなメッセージ〜」が開催されます（2024年12月8日〜2025年1月5日）。この機会にぜひご覧ください。' (In this project, we conducted on-site fieldwork in Fukushima and its surroundings to think about disasters and humans. This year, many people listened to 'small stories' and visited facilities built to pass on memories. At the symposium, we invited Jun Nakane, the director of 'Our Heritage' and a photographer, to give a lecture on 'How to convey the disaster 13 years later'. We also invite reports from students who visited the site and high school students' activity reports. We will also hold activities to 'pass on the story' from various perspectives. In addition, a photo exhibition by Jun Nakane, 'Beyond the Convent - Quiet Messages from Abandoned Streets -', will be held at the OIC Library Exhibition Room (December 8, 2024 - January 5, 2025). Please take this opportunity to see it.)', '※プログラム、講演者プロフィールなど詳細につきましては裏面をご覧ください。' (Please see the back for details on the program and speaker profiles.)', '【日時】2024.12/8【日】13:00-16:20(予定) 開場12:45', '【会場】立命館大学大阪いばらきキャンパス(OIC) C棟2階271教室 会場収容人数:30名まで ※発表する院生、講演者は会場より発表します。', '・メールから ejfspj2011@gmail.com \*件名「2024シンポジウム参加」 \*本文に以下1)〜5)をご記入願います。 1)お名前 2)メールアドレス 3)属性(学生、院生、会社員等など) 4)参加形式 別席またはキャンパス内 5)お住まいの都道府県 ※緊急時の連絡先 締切:12月1日(日)', '中筋純 写真展 コンセントの向こう側 ~無人化した街々の静かなメッセージ~ 【会期】2024年12月8日(日)〜2025年1月5日(日) 【会場】OICライブラリー展示室 ※会期中の図書館開館日程はこちらから⇒', '共催:立命館大学大学院人間科学研究科/生存学研究所' (Co-organized by: Graduate School of Human Science, Ritsumeikan University / Survival Science Research Institute)

12/9  
ストレッチに行った後、混雑しているタリーズ  
で、新刊の2校。200ページ以上あるけれど、  
スルッと読める。くどくどした満足ではなく、  
これくらい伝わったら十分本意ですなんて  
読後感。いつ頃発売になるかなあ、楽しみ  
だ。  
(2025/5/20 発行 四月末にはご覧いただけ  
るようです。)



12/12

横浜日帰りの講演をこじんまりしたい感じのホールで終了。書籍販売に来てくれていたホンブロックのスタッフと雑談して帰路に。孫と会う予定は彼女が体調を崩したので正月まで延期。新横浜駅で早目の夕飯。目についたここでミニコースを食べたがどれも美味しかった。オーディブルで「不毛地帯3」を。



12/13

1月に平和ミュージアムでやる漫画展のため、新しい掛軸作りをタイトな日程で取り掛かっている。その合間にT君が京都での頼まれごとがあつて来ると連絡してきたので、久々の魚の美味しいスペイン料理店に。ゆっくり腹

一杯食べながらあれこれ歓談。(この翌日、仕事の帰路に交通事故を起こしたとの知らせ。無事だったらしいが驚く。事故は誰も避けられない。詳細が本人の執筆者短針欄にあります) その後、仕事場に戻って夜中、制作の続き。



12/19

昨夜の「帰ってきたトークライブ」の録画が早速配信されてきた。それを2話とも、二時間半ばかり聞いた。自分が昨日話したことを、今日聞いているなんて、よほどのナルシストだと言われるかもしれない。でも、聞いていて面白かったんだもん。よく知っている話だし。当然だけど。



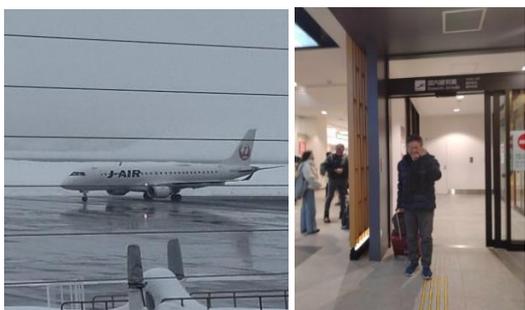
健康のため、歩いたほうがいいとは思っている。しかし最近鈍り気味だったので、今日、鬼のように歩いているK君のFBを読んで、よし！と出発した。京都御苑を抜けて同志社大学から相国寺、出町柳と良い所が近くにある

なあ。観光の人もたくさん。でも久々の1万歩近くは疲れて、途中でダウン気味のランチ。

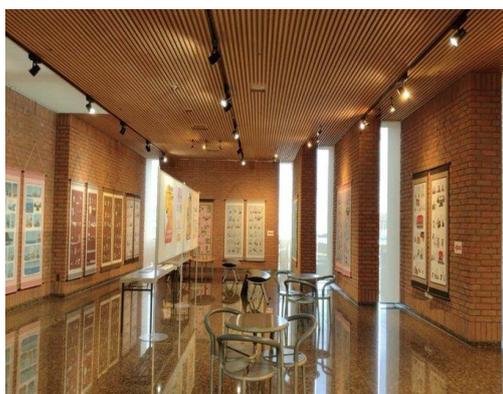


12/21

先月に続いて青森空港に到着。お迎えがあって、今からむつ市まで、ロングドライブに出發。



12/22



むつ市図書館で先日まで開いていた漫画展の写真をもらった。掛軸がこのギャラリー

に映える。講演会は約二時間、好きなことを調子よく喋り倒す。そこそこ笑いありで満足。\_\_

12/24

世間はクリスマス・イヴ。山下達郎の定番曲をちら耳しながら、来年1月の漫画展の準備。世話人のHさんが自宅に来てくれて、選択、発送作業はテキパキ。この間にむつ市開催終了した掛軸宅配便が届く。こちらから発送の段ボールも一つ集荷してもらおう。誰もがきちんと仕事してくれるから成り立つ社会システムだ。

12/26

一年ぶり、恒例で歩き男K君来訪。現役でアレコレ多忙な者同士、話は公私とも多岐にわたる。歳をとると周辺事情の個性が高まることを実感しつつ、面白く話す。しかしドンドン忘れていくのが高齢者同士の会話の残念なところか。彼が新しく購入したPCレッツノート、色も私とお揃いなのではないかな。後半は行きつけの店で美味しい夕食も。(能登被災地で大量パエリアの炊き出しを継続中の店主)

12/27

午後、あれこれ忙しそうなC君が時間を見つけて居座り話に来る。短時間、要件を交換する話し方とは違った、何に展開していくのか、自分でも興味深い対話は面白い。初めて話すなあなんてことも色々出てきて不思議だ。締めは近くにオープンしたいぶり鳥料理店だったかな？そんなところで夕飯。



12/28

木陰の物語第 299 話をひとまず完成。二十五年間、毎月 1 話描き続けた 300 話が間近だ。この間、連載環境はいろいろ変動してきた。にもかかわらず続けられたのは、作品だけではなく、掲載する場所への工夫を意識化してきたことが大きい。いろんなものを続けていることがもたらす大きさを思う。



12/29

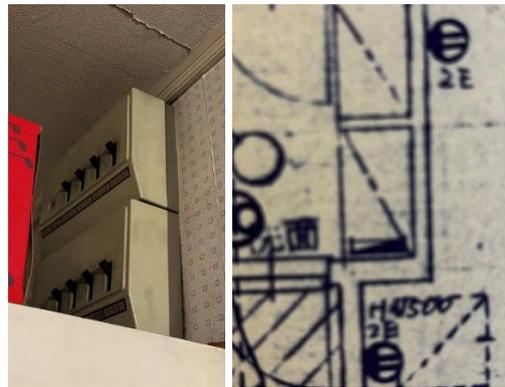
自宅リビングに散乱していた段ボールを解体して箱詰めし、床などに放置してあった多量の本を別室の棚に無理やり運搬。2年ぶりかなあ、かなりなもんだらうと独り言。だが部屋の見た目はあまり変わらない。私以外の人にはひどく散らかった部屋のままだらう。この報われなさが掃除嫌いの要因だ。

片付け中にこれが目に。安野光雅の後書き風の短文を読み耽る。こんなふうを書いてみたいかなと思って、ノート PC を開く。これでははかどるはずのない年末の掃除。誰にも注意されないから余計だ。



12/30

足元暖房と炊飯器を何も思わず同じコンセントで使ったらブレーカーが落ちた。一階台所の配電盤を知っていたのでそれだと思っていたら違った。照明も暗くなった二階をあちこち探しても不明。弱りきって家の図面を出してきて一階のそこと同じ記号をやっと見つけて対応。自宅なのに知らないこと多し。



12/31

今日もダラダラ片付けをしているから、はかどらない。でも誰も文句も言わないので気楽だ。その間に、薦めている人があった映像を二つ。「密輸 1970」は映画館のポスターが印象に残っていた。「ルックバック」は自分では選ぶことのないアニメ。でも少し、私も頑張れ！と思った。絵がすてきた。



大晦日に自宅にプリンターが届いてセッティング。全く正月を迎えようと言う気配のない作業。新刊「家族理解の教科書 graphics」の牟

田郁子さん校正が届いているのでプリントアウトをして、今から読む。ちょっと見ただけでも書き込み事項がいっぱいで楽しみだ。



1/1

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく。

2025.1.1.



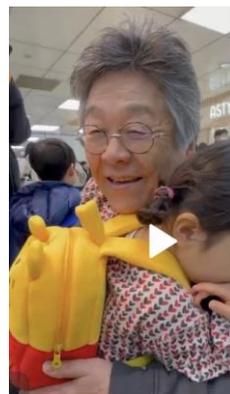
1/2

午後、娘と孫(女兒、まもなく4歳)が横浜からやって来た。正月気分はなかったのだが、里帰りなので少しはそんな空気。アトリエ化してしまっていた二階リビングの大机を、一年以上ぶりに食卓用に片付ける。娘も一階の気になっていた所を掃除する。これじゃ正月でなくて年末だ。夕飯は私の作り置きカレー。

1/5

帰省していた母子を京都駅で見送った。さあ、2025年のあれこれがスタートする。

孫の相手をしていると、大昔、私はあまり子育てに参加していなかったのを思い出す。妻は大変だったろうなあなんて、今頃になって思っても、何いてんのよってどやされそうだな。



1/5

2025年1本目の映画はこれ。「陪審員2番」。クリント・イーストウッドは、長い間映画を作ってきたから、こんな法廷物映画でも分かりやすい結末にはしない。短い間に、善悪のはっきりする物語ばかり見ていると、バカになるとも言っているのかな。誰の人生も都合のいいところで区切れたりしない。



1/7

プリンターが壊れて新しくするのに時間がかかっていた。やっと対人援助学マガジン49号を製本した。web雑誌だし、こんな風にす

るのはコストを考えると不合理的だ。でも手に取ってパラパラ拾い読みしたい欲望が抑えられない。



告知、今年最初の漫画展です。1月13日から30日まで。日曜日は閉館ですのでご注意ください。私は1月18日土曜日正午から、会場にいる予定です。立命館大学平和ミュージアムの展示と連動して、私の掛軸マンガも、戦争と家族を意識したものを選びました。ぜひご覧ください。



1/8

勉強会始めは、草津家族理解 ws。インフルエンザなどの流行で欠席もある中、14名出席。一時間余の話と事例検討ワイワイ。終了後、王将で夕飯を食べて、京都の仕事場に。途中のコンビニで苺があったので購入。しかし

苺の葉っぱってこんな大きかったか。飛びそうだなあ。



1/9

山崎豊子「不毛地帯」第四巻まで audible で聞いた。(ずっと前、単行本は目にしていたがボリュウムに圧倒されて手が出なかった)。最終第五巻のアップは二月というので、つなぎに随分前に読んだコミックス「凍りの掌」を再読した。「不毛地帯」第一巻はシベリア抑留の話が中心だ。数年前、零下24度のハルビンを訪れた時を思い出して、さらなる極寒の地でと震え上がる。



1/11

通訳アリの不得意な設定の会をなんとか無事にやり終えた。ターラの本、日本語版出版の経緯や、私に見える日本の児童福祉実践の歴史、今のありようも話せて良かった。著者パボさんの見た今の日本とフランスの違いも、確かに！とうなづく。基本的に漫画家スタンスで話せて良かった。

【1月10日京都】団士郎 x パボ 対人援助実務者出身漫画家の対談



1/11

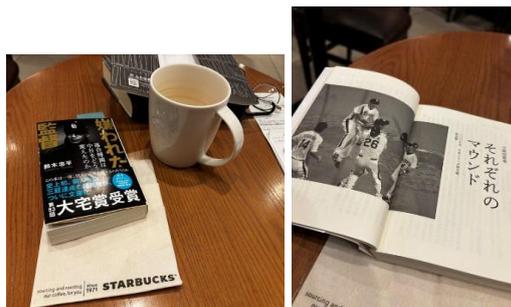
午後から三日間、恒例の KISWEC 家族療法 ws。インフルなどある中、33名の参加でスタ

ート。聞いている方はどうだかわからないが、語る側のペースで思いのままストレスなく快調に喋る。そして実習もたっぷりだから、三日間なんてあっという間だろう。参加者の皆さん、楽しんでください。



1/12

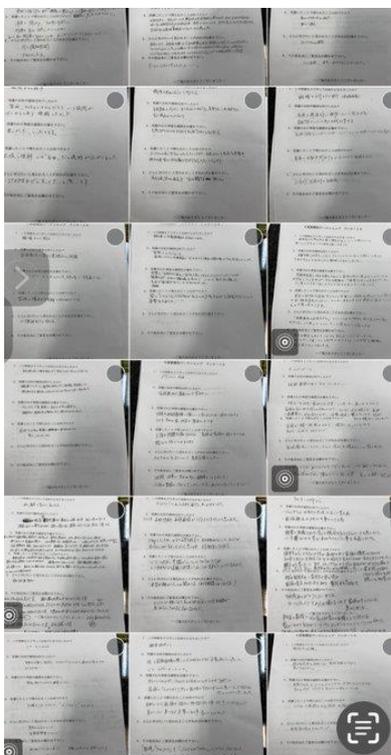
既読本をなぜ買うのか。それは文庫版新章が一つ、加わっていたからだ。プロ野球の話なのだが、落合博満がどのように嫌われた監督だったかを、選手との間の驚くべき関係物語で描いていた。単行本発行時、こんな面白いものはなかなかないと思って読んだ本を、追加章だけ読んで、あとは Audible で、やっぱり面白い。



1/13

三日間のワークショップが終わった。次世代スタッフと四人体制(後継者にらみ)で賑やかに、参加者には喜んでもらったと思う。アンケートにたくさん書いてもらったのを読みながら、30年以上続けることで蓄積されたプロ

グラムの厚みを実感する。さあ、次の仕事の準備だ。



(感激のアンケート群。写メに撮った)

1/15

今から京都駅で新幹線に乗継ぐ。自宅最寄りの在来線膳所駅から京都まで10分。まだ随分、時間的余裕がある。かつては時計替わりになる正確さが常識だったJRが、安全確認のためだと遅延を連発するようになった。その結果、乗り遅れかとヒヤッとすることがあったので、用心のための不信が根付いてしまっ

た。もう5分の乗り継ぎなんて曲芸は出来ない。

1/16

帰路、静岡駅で買ってきたのを食べた馴染みがなかった鯛めし、今日お昼のお弁当の一部に入っていて気付いた。幕内より鰻弁当より、コレだなと選択したのだが美味しい。とても美味しい。タイのそばろの味付けが好みだ。先ほど下車した、新幹線京都駅構内で松葉の鯨蕎麦を食べてきたのに食い過ぎだ。



1/17

ずっと気になっている本が、なかなか読めない。280ページほどだから毎日40ページ読めば、一週間で終わる。こう考えてカバーにメモを書いて読み始めた。本日ノルマは終了。もうちょっと読もうかな。

(半分までいったところで、この著者、同じ事を繰り返している粘着質のおじさんな気がして冷めた)



1/18

今日は午後、京都、国際平和ミュージアムで  
開催中の家族漫画展会場に出かけた。



**団士郎 (だん、しろう)**  
学芸心理師(京大・東大)・大学教授  
1947年京都生まれ。

児童福祉施設、障害者福祉施設の心理職25年を経て、1998年に独立。仕事場D・A・Nを主宰。2001年から立命館大学 応人福祉学研究所 教授。2020年定年退職し、立命館大学 学芸員兼任。

同大学院と「東日本・家族応援プロジェクト」総機中(立命館大学ホームページ)で、全道で連続的に家族支援のワークショップを開催するほか、講演会も数多く開いている。

出演者：日本漫画家協会会長、漫画家団「ほむ」同人、WEB雑誌「対人援助マガジン」編集長。近年は上海、蘇州、ニューヨーク、ハワイでも漫画家として活躍。

**ごあいさつ**

私にとって、「家族」とは「健康」に似ています。健康な時に「健康であること」を意識しませんよね。病気になるまで自分の健康状態に敏感になります。「家族」も「健康」と同様、「このまあいっつも同じ形が続けられてはいい」「良いこともあれば悪いことも起こると知っただけで、最悪な状態に陥らないようにメンテナンスする必要があると思います。

子育ての悩み、親世代の介護問題、夫婦間の課題、家族には色々なことが起こります。何も起こらない家族は、世の中に一組もありません。

だから「何も起こらない家族」を目指すのではなく、何か起こっても「なんとか乗り越えることができる」力を身に付けるべきです。漫画「木陰の物語」に触れることで、さまざまな家族のあり方や考え方に会えます。漫画には答えはありませんが、心のどこかに響き、困ったときの味方になりますように、そして明日への元気な一歩につながれば、私はとてもうれしく思います。

2025年1月

団士郎

**【関連企画】**

**物語と土地の力**  
～東日本・家族応援プロジェクトとアクシマを巡る旅～

第1部 東日本・家族応援プロジェクトの軌跡 2011～2023  
第2部 アクシマからチェルノブイリへ～往還する物語と土地の力～

■会場：立命館大学国際平和ミュージアム1階 企画展示室  
■会期：2025年1月13日(月)～30日(木)  
■主催：立命館大学大学院人間科学研究科 東日本・家族応援プロジェクト

**開館時間** 9:30～16:30 (入館は16:00まで)  
**休館日** 日曜日より祝日の翌日 (日曜日の場合は開館、翌日より休館)、大寒祭、夏期休暇中の大学の定める日 (詳細はHP内のカレンダーをご確認ください)

**見学料** 大人400円、中学生・高校生300円、小学生200円  
※障害者団体、障がい者団体等、企画費を減額しお預かりの予定です。ご希望の際は必ず事前にお知らせください。  
※JAF会員登録の有料、1枚55円まで(見学料が50円引かれます)。立命館大学中心・大人は無料です。

**アクセス** ■JR・近鉄京都駅より  
京バス50「伊達立命館」下車、徒歩5分  
京バス206「から天徳院」下車、徒歩10分

■JR電車 京都駅より (各停停車)  
京バス206「から天徳院」下車、徒歩10分  
京バス 伊達立命館「立命館大学前」下車、徒歩5分

■京阪電車 京都駅より  
京バス15「立命館大学前」下車、徒歩5分  
京バス204・205「から天徳院」下車、徒歩10分

お問合せ：ejfj2011@gmail.com



1/21  
一日中、確定申告の準備。担当してくれていた税理士(義弟)が亡くなったので、今年どうするかなあと思案中。夕刻、ねこから目線のKが相談にくる。あれこれ話した後、夕飯を食べに出たが、2軒に振られて丸亀製麺に。間もなく78歳のお爺だがよく食べる。

下見の時の話よりまとまった空間展示は、  
広さがあるので、ゆっくりマイペースでご覧いただけます。鼓のような椅子に座ってじっくり見ている方も。珍しい方、そんなご縁でと驚く方にも出会え、嬉しい事でした。次はいつ会場に行けるかな？



1/22

3月のぼむ漫画展用の掛軸版準備をしている。かなり早目だが、ゆとりのある方がいい。実は随分前から手はつけていたのだが、その作業過程のこんな Photoshop 加工作が残っている。ところがコレをどうやって仕上げたかわからない。古いバージョンのソフト。よくわからず使っていると時が経つと忘却。いま美しい老化だ！



1/23

午後、2月にやる zoom 講演の zoom 打ち合わせ。世話役は院の卒業生で、今や三人の子の母である。その後、約束していた来訪者がお花を持ってきてくれた。仕事場にあったワインの空瓶に、オブジェっぽく生けてみた。いろんな話をしていると、あっという間に時が経つ。



1/25

ちよっ久しぶりに明石海峡大橋を高速バスで渡る。徳島市で開催の集まりに参加するためだ。いいお天気で、1月下旬とは思えない。車中ずっと、向田邦子のこれを聴いている。昔読んだものだが、こんな生々しいことを書いていたのかと驚く。昔は読めていなかったのか、やっとそんな歳になったのか。



1/26

昨日、今日、いろんな若い人たちと歓談する。自分の担当は岡田隆介さんとのなんとやら・・・で、気ままに楽しく発言して過ごす。午後の対応のバリエーションとやらも、フワフワ聞いていた。今思っていることはたくさんあり、それを言葉にすることに躊躇いもないが、結論が言いたい訳ではない。



1/28

夜中に新作第 300 話の下書き完了。ペン入れは明日の夜。明日(正確にはもう今日だけ)は正午から漫画展会場に2度目の出勤。28日午後、立命館平和ミュージアムにおります。おついでがあったら足をお運びください。



度、新作を書くことだった。我ながら 25 年、300 話は凄いと思う。自作なのに覚えていられないのもあるのは残念だが、これからも更に重ねていこう。



1/28

audible はこのところ向田邦子再び。ずっと以前に、新刊が出ると必ず読んでいたのを、朗読で聴いている。中身は覚えていなかったものが多く情けない。しかし、女性の朗読で聞く短編の数々は、男の私が黙読していたものとは微妙に別物な気がしてならない。これは向田作品独特だな。

1/30

昨年末、近所の美味しいパン屋さんでクリスマス包装のシュトーレンと書いたものを買ったら、意外に高かった。一人で食べられるかあと思っていたが、美味しく食べた。ネットでフツツェルブロードというこの写真を見て注文した。さっき届いたので食べたら似たもので美味しかった。ドイツっぽい。

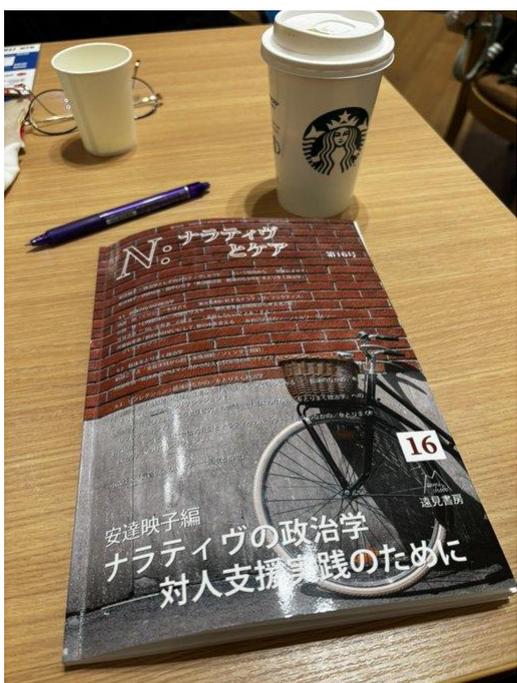


1/29

午前 2 時に第三百話が完成した。月刊連載 25 年である。この間に周囲の環境はいろいろ変化した。変わらなかったのは、私が月一

2/1

高知でのWSに向かうため伊丹空港にいる。ランチは銀鱈西京焼き定食。食後のティータイムはスタバのラテ。今朝届いていたこの雑誌。AさんがFacebookで書いていたもの。最初の鼎談、面白い。自分と似たことを言っているからそう思うのかもしれないが。



2/2

南国市の希望ヶ丘学園を会場にWS。十九人の参加でワイワイ。2011年から訪れている高知、コロナは挟んだが15年前からである。約半数が初参加という、とても良いバランス。

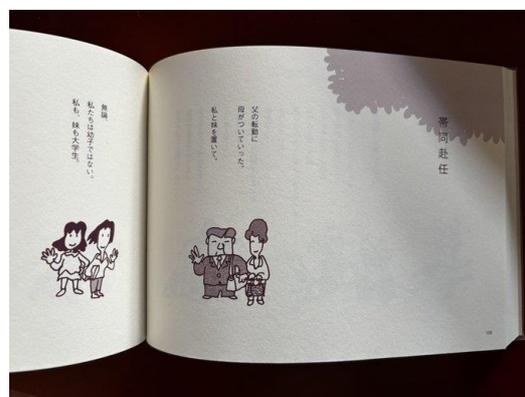
新たに関心を持ってきてくれるのは嬉しい。貸し出しDVDで自主勉強会経験の声も多い。



2/5



仕事場の寝床の足元の棚に、家族の練習問題1-9巻のストックが100冊あまりある。今朝、寝起きにその一冊に手が伸びた。忘れてはなかったが、辻村深月さんがエッセイを寄稿してくれていたのを思い出した。そこから始まって次々読み出したら止まらなくなった。「帯同赴任」なんて忘れていた。いいなあ

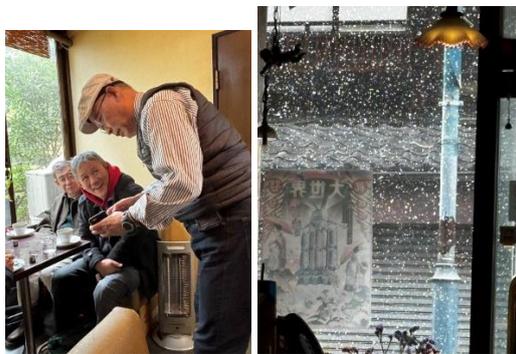


2/6

昨日はマンガ集団ぼむの月例会。毎年ぼむ展をやるギャラリー余暇庵でミャンマー支援マンガ展を篠原が実施しているのに合わせて。

窓の外は一時、大粒の雪景色。和食のランチして近くのカフェで歓談。みんなリラックスの良い顔をしているなあと思った。

(黄色いコートとハンチングの男性は  
マガジン連載の漫画家です。)

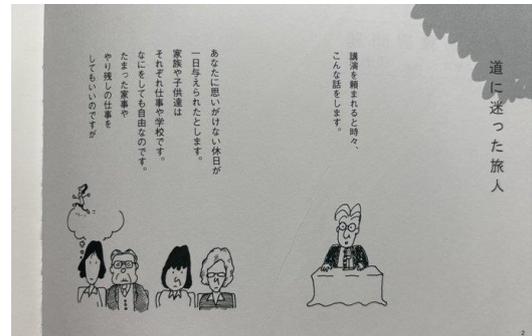


2/6



「家族の練習問題」第一巻のコラムは作家の沢木耕太郎さん、映画監督の大林宣彦さん、デザイナーのセキユリヲさんがコラムを書いて

くださっている。豪華でしょ！そして巻頭はこの物語から始まる。



2/7

今週はじめからのニュース、天気予報に煽られて、土曜日開催の東京 WS への新幹線が不安になった。そこで前日出発することにした。それなりの景色の琵琶湖岸から関ヶ原エリア。しかし浜名湖畔、浜松駅、富士山と静岡県に入るとこれだ。豪雪地帯のニュースを静岡の人はどう思って見ているのかなあ。



2/8

audible で今、これを聴いている。舞台は神田神保町の古本屋。今回の WS 会場が神田なので、その近くで見つけたのがすずらん通りのホテルだった。夕方付近を散策したら古書店が楽しくて仕方ない。二軒目までで三冊も

購入。カバンに入らないから打止め。食後のカフェで楽しい読書。



2/10

正午からきっちり一時間、ネットの育休コミュニティの参加者にzoom講演会。木陰の物語を紙芝居のように三作見てもらって、ブレイクアウトルームで話し合ってもらった。大学院の教え子Tが企画依頼してきたもの。好評だったようで、新たな読者が生まれたかも。



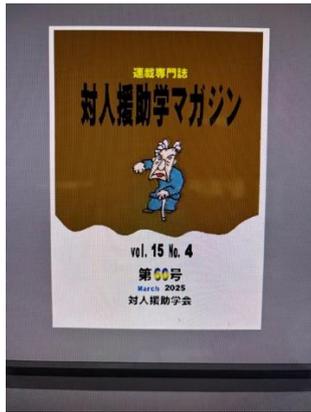
2/9

昨日、東京WSを完了。今日は帰宅するだけ。せつかくの東京、と思っていたらホテルで新聞の小さな広告が目に入った。このマンガ、最近再読した。何かの縁だと新宿住友ビルに。思いがけず興味深く、あれこれ見入ってしまった。そこそこ来場者もあり、映像も充実。関連書もポチリ。後日の楽しみ。



2/11

さあ、対人援助学マガジン第 60 号の編集作業を開始。連載原稿執筆者の皆さん、おられないように 2 月末に原稿をお寄せください。新たに連載してみたいと思われる方は、趣旨を明記して編集長に打診してください。61号は 5 月発行ですので、そこからも可能です。



2/14

昨晚の zoom 講座四回目が終わって、このあと二月は月末までゆったりスケジュール。今日はランチに近くの気になっていたお店に。美味しくてパクパク食べ終わったら、お勘定の時マスターに 200g ペロリでしたねと言われた。旨かったからね。



2/16

昨日から亀岡のここでマガジン関係者合宿。飲んで食べてお風呂も入って、あれこれよく話した。この宿、おしゃれなことを色々発信している。お客も大勢だった。以前マンガ仲間と来た時も、ここ知っているなあと思ったが、そうか昔の亀岡ハイツだ。施設職員との泊まり込み交流会などした場所だ。



2/18

昨日から月末まで、もっぱら仕事場作業の日々になる。輪島 WS、広陵町 WS の準備。マガジンの編集。合間に Netflix や Amazon プライムの面白そうなものを探る。映画「ブルーピリオド」はなんだか楽しめた。絵を上手になりたい芸大受験生の話。こんな風に努力したことがないなあ。

